

4 地震・津波対策

(1) 地震・津波対策の内容

災害等から児童生徒等の安全確保を図るためには、学校や児童生徒等の実態、地域の実態等を考慮した学校独自の危機管理マニュアルは必要不可欠である。本危機管理マニュアルを基に、以下の項目にそった実効性のあるマニュアルの策定に努めることが重要である。

<学校における危機管理マニュアル作成のチェックポイント>

| | 項 目 | ○・× | 改善策等 |
|---|---------------------------|-----|------|
| 1 | 自校の概況及び海拔等立地状況 | | |
| 2 | 学校の防災組織体制の見直し | | |
| 3 | 複数の避難経路及び避難場所の確保 | | |
| 4 | 災害時の職員等による避難誘導の内訳及び手順等 | | |
| 5 | 地震・津波等を想定した避難訓練実施要項 | | |
| 6 | 安全点検表（施設・設備、非常用品等）チェックリスト | | |
| 7 | 児童生徒等の緊急時引き渡しカード | | |
| 8 | 関係機関との連携と緊急連絡網 | | |
| 9 | 地震・津波対策のフローチャート | | |
| 10 | 児童生徒等の安全確保を図るためのチェックリスト | | |
| 11 | 地域の避難場所としての学校の役割 | | |
| 12 | 児童生徒等の危険回避能力の育成 | | |
| 13 | 事故・災害時における心のケア | | |
| <p><資料等について掲載する></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画 2 学校周辺の防災安全マップ（図） 3 救護の実際 4 その他、地震・津波に関する資料等 | | | |

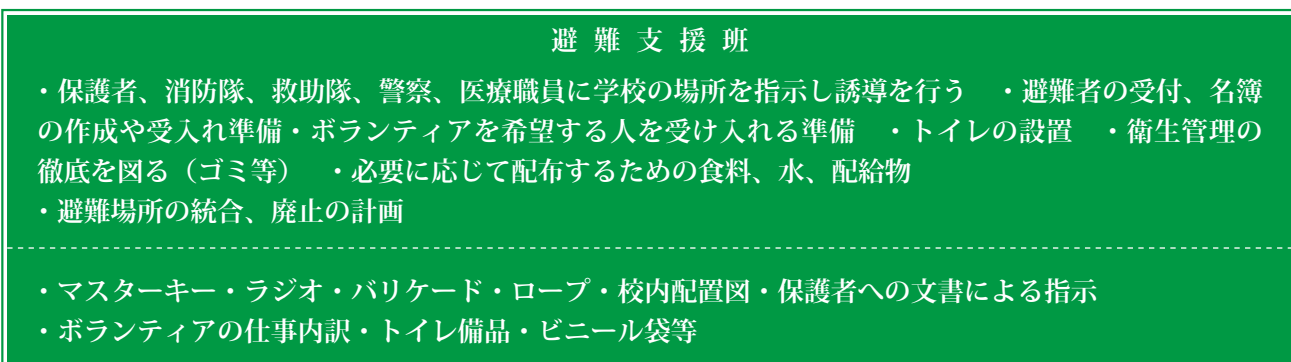
(2) 学校の防災組織体制の見直し

児童生徒等の安全確保を図る上で、災害等を想定した対応策を講じることは重要である。そのためには、学校組織としての体制を構築しておかなければならない。職員それぞれの役割分担を明確にし、組織としての機能を果たすことが求められている。各学校においては、既存の組織体制について不足部分を補う等、見直しを図り、より実効性のある組織体制を構築する必要がある。

<例>



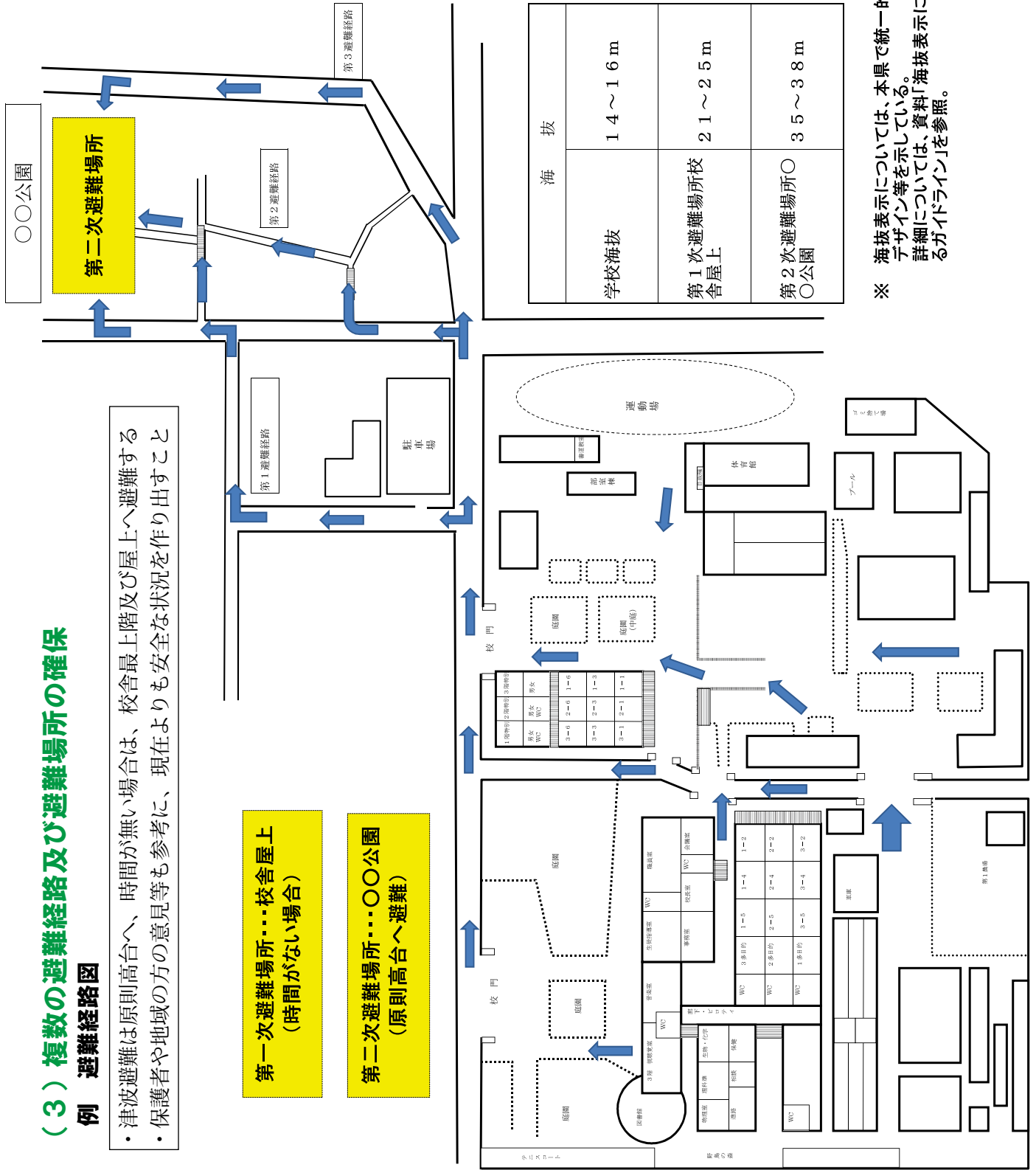
～一時避難完了後、学校が避難場所となった場合の対応～



(3) 複数の避難経路及び避難場所の確保

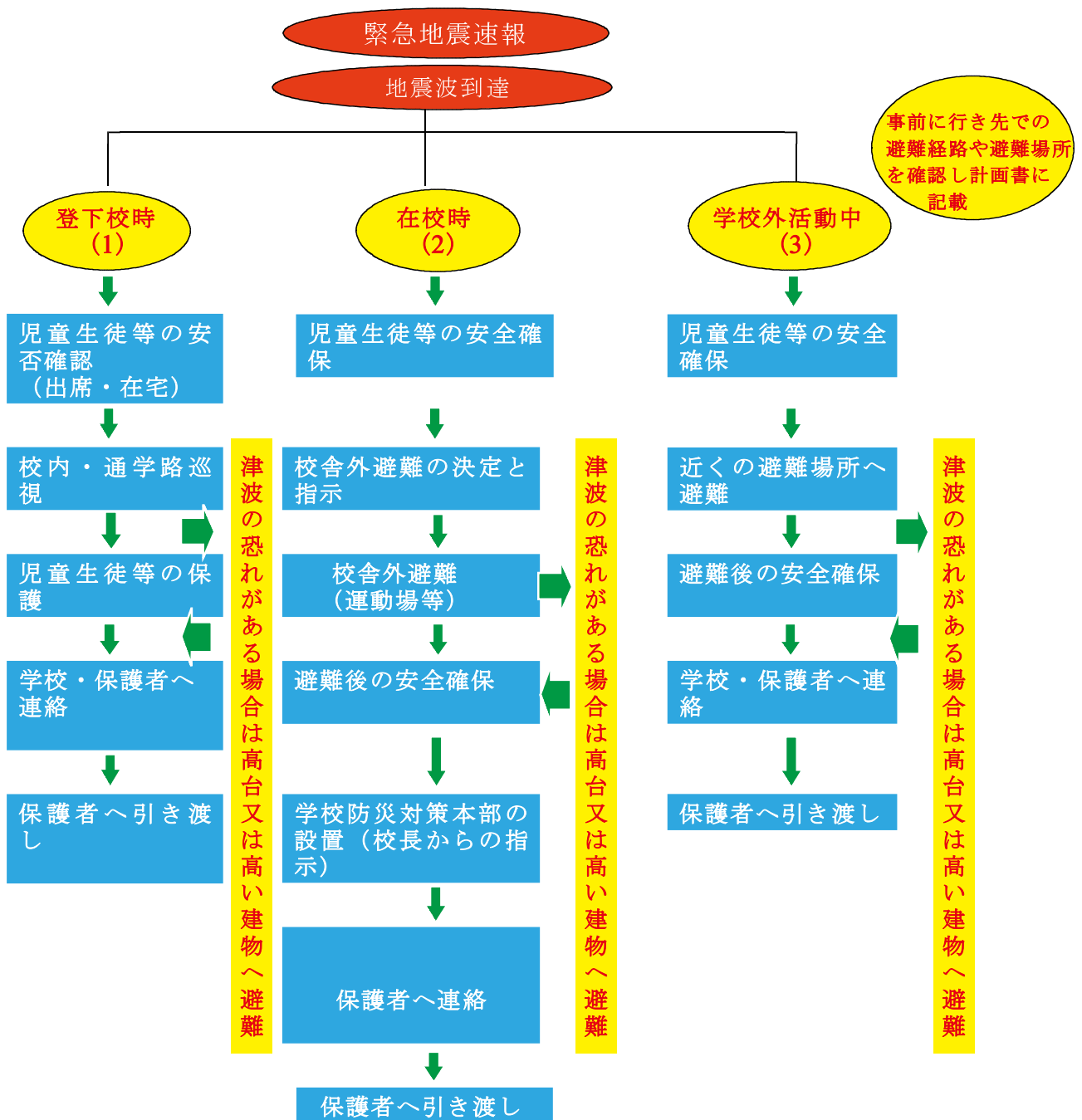
例 避難経路図

- ・津波避難は原則高台へ、時間が無い場合は、校舎最上階及び屋上へ避難すること
- ・保護者や地域の方の意見等も参考に、現在よりも安全な状況を作り出すこと



※ 海抜表示については、本県で統一的なデザイン等を示している。詳細については、資料「海抜表示に係るガイドライン」を参照。

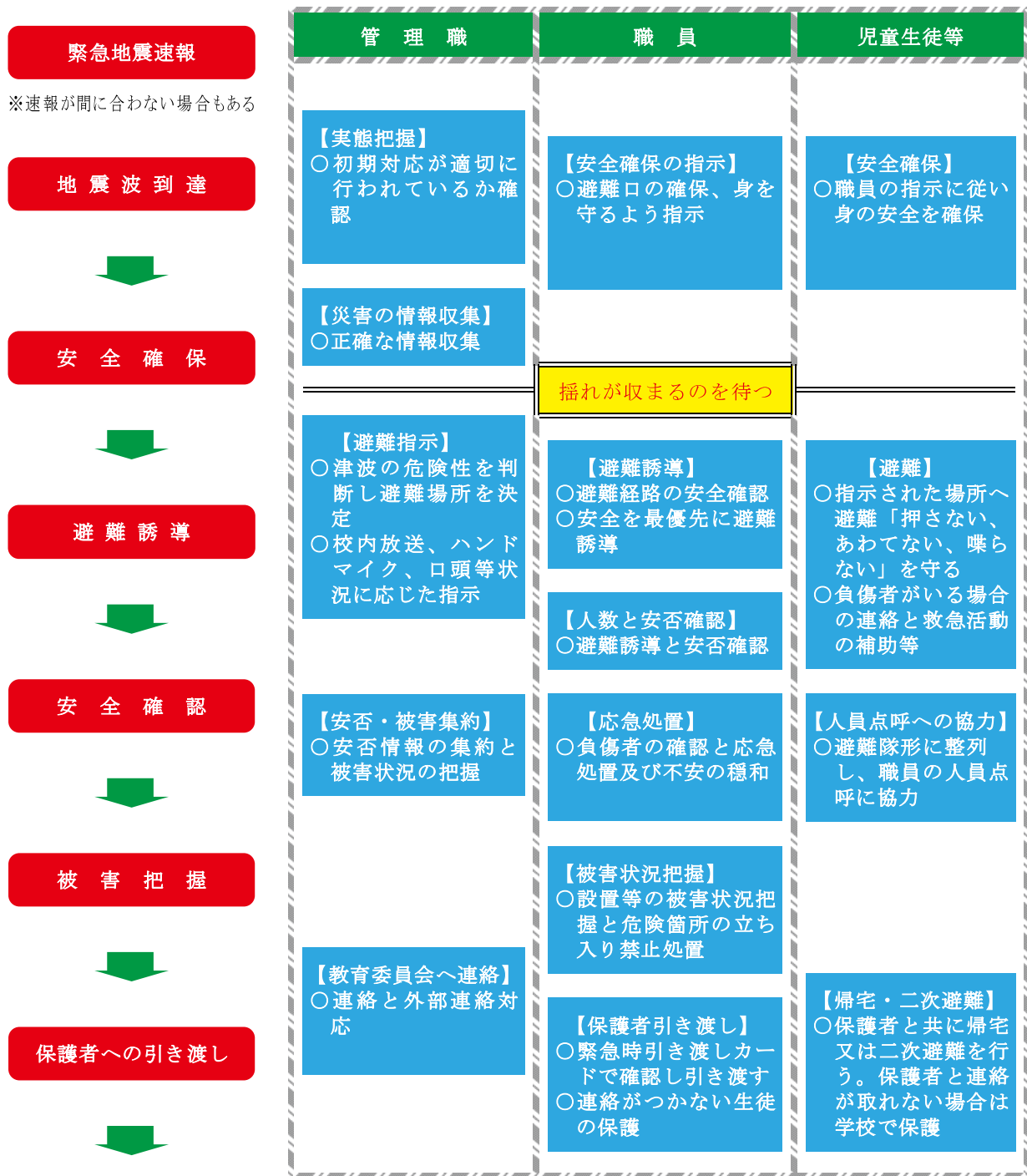
(4) 地震・津波対策のフローチャート



- (1) 地震発生後、概ね3分以内に津波警報・注意報が発表される。また、情報は更新されていくので常に新しい情報を収集する。海岸付近の学校は、強い揺れや周期の長いゆっくりとした揺れを感じた場合には、津波警報・注意報の発表を待たずに高い場所へ避難する。
- (2) 津波警報が発表されれば、早急に高台等へ急いで避難する。
- (3) 校外活動（修学旅行等も含む）を行う際は、事前に行き先での避難経路と避難場所を確認すると共に緊急時の連絡体制を構築する。

(5) 災害時の職員等による避難誘導の内訳及び手順等

① 地震発生時の基本対応



避難所としての施設管理と学校再開に向けた対応と計画の検討

② 安全確保の基本

| | 授業中の対応 | 休み時間・放課後の対応 |
|------|---|--|
| 安全確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・近くの窓、壁と反対側に頭を向けて机の下に潜らせ机の足をしっかり持たせる。 ・職員は冷静に的確な指示を与える。 ・安心させるため声をかけ続ける。 ・揺れが収まってから火を消す。ガスの元栓を閉める。電気器具のコンセントを抜く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員がその場になくても、児童生徒等自らが安全な行動がとれるよう平素から指導しておく。 ・近くにいる児童生徒等に指示や声かけをして不安や恐怖心を和らげる。 |
| 避難誘導 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難口を確保する。 ・転倒、落下の恐れのある物から児童生徒等を遠ざける。 ・避難経路、避難場所の安全を確認する。 ・本部の指示により避難を開始する。(状況によっては指示を待たず避難開始) ・職員は児童生徒等を前後から守りながら誘導する。 ・頭部を保護しながら避難させる。 ・負傷者の応急処置を行う。 ・重症の場合は救急隊に連絡し到着まで付きそう。 ・車椅子使用等の児童生徒等は安全な場所に一時待機させた後速やかに避難させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員は近くや担当学年、学級の児童生徒等の安全確保と掌握に努める。 ・避難について児童生徒等及び職員に指示する。 ・職員は分散して、各教室、体育館、トイレ等をチェックする。 |
| 安否確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所では、出席等により人員を確認し本部に報告する。 ・不明者の発見に全力を尽くす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人員確認ができる体制を速やかに整える。 |

③ 場所別の初期対応

| 場 所 | 具体的な行動 |
|---------|--|
| 教室や特別教室 | 近くの窓、壁と反対側に頭を向けて机の下に潜る。実験中は危険物から速やかに離れる。 |
| 体育館 | 体育器具や窓ガラス等から離れ、体育館の中央に集まり頭部を保護してしゃがむ。 |
| プール | プールのふちに移動し、プールのふちをつかむ。 |
| 廊下や階段 | 窓ガラス、蛍光灯の落下を避けられる場所で姿勢を低くする。近くの教室の机の下にもぐる。 |
| トイレ | ドアを開き、頭部を保護して動かずにいる。 |
| 運動場・中庭 | 校舎等からのガラスの飛散や外壁の崩壊、フェンスや体育用具等倒壊の危険物から離れる。 |

④ 登下校時の対応

| 学校の対応 | |
|-------|---|
| 安否確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全点検を行い、危険箇所等を保護者及び生徒に周知し、災害時に落ち合う避難場所を決めさせておく。 ・児童生徒等が自ら判断し、避難行動をとることが原則となるため、災害に対処する力を高めるよう日頃から防災リテラシーの育成を図る。 ・交通機関を利用する児童生徒等には、交通機関が不通になった場合に徒歩で帰宅できるよう各家庭で通学路を確認させておくと共に、災害発生時には現場の指示に従うよう指導し、同時に児童生徒等の判断力の育成を図る。 ・交通機関の途絶等により、児童生徒等が安全に帰宅することが困難な場合、保護者への引き渡しまでの間、児童生徒等を学校で保護する。 |
| 避難誘導 | <ul style="list-style-type: none"> ・揺れが収まった後、家へ戻るか学校へ避難するかについては原則として近いほうを選ぶ。 ・途中で避難している児童生徒等や移動中の児童生徒等の安全確保については、保護者と学校が連携してあたる。また、そのための対応策について日頃から協議しておく。 ・学校に避難してきた児童生徒等への対応策を明確にしておく。 |
| 安否確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・無事に帰宅できたかどうか等、児童生徒等の安否確認ができるよう連絡体制を整備しておく。 |

⑤ 校外活動中の対応

| 職員の対応 | 留意点 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・室内では初期行動や避難方法は授業中と同様とする。 ・倒壊や火災、爆発の恐れのある建物から児童生徒等を速やかに遠ざける。 ・狭い場所や道路では、看板等の倒壊や落下に注意し速やかに広い場所へ移動させる。 ・海岸では津波、山間部では土砂崩れに注意し安全な場所に避難させる。 ・電車、バス等に乗車中の場合は乗務員等の指示に従う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員は落ち着いた態度で明確に指示し、児童生徒等に不安や恐怖心を与えないようにする。 ・車中では、とっさの安全確保ができるような乗車姿勢と態度を取らせておく。 |

⑥ 宿泊滞在中の対応

| 職員の対応 | 留意点 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・夜間、特に就寝中の場合は建物の構造に不慣れなことから混乱が生じやすいため事前に確認をする。 ・各部屋の児童生徒等を掌握し負傷者の確認と人員点呼を確実にを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・宿舎到着後、児童生徒等に避難経路と避難方法を確認させる。 |

(6) 地震・津波等を想定した避難訓練実施要項

自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成するための防災教育の一環としての地震・津波等を想定した避難訓練は大変重要である。

これまで学校によっては、地震・津波に関する対策マニュアルは十分とは言えず、地震・津波に関する既存の危機管理マニュアルを見直し、それを効果的に活用した地震・津波を想定した避難訓練の充実を図る必要がある。

避難訓練を通して、児童生徒等に危険回避能力を身に付けさせると共に、自分の身は自分で守ることに繋がっていくものであると考える。

なお、最悪の状況等を踏まえた地震・津波等、ケースバイケースに応じた避難訓練の内容等も考慮し、実施後は、評価・反省（CAPDマネジメントサイクル）を踏まえ、より効果的な地震・津波等を想定した避難訓練の内容充実を図る必要がある。

また、職員の研修として、誘導や救護等の各役割の重要性や最悪の状況等を踏まえた職員のための避難訓練のシュミレーションの実施が必要である。

<中学校防災避難訓練（例）>

① 目的

ア 地震、津波等がいつ来るか予想できない災害に備え、災害防止や集団避難の関心を高め、安全に避難できる能力や態度を養う。

イ 集団避難訓練を通して落ち着いて、冷静に、しかも機敏に行動できるようにすると共に、互いに協力しあうことの必要性を理解させる。

ウ 災害における重要物件（文書、物品等）の安全を図る。

② 実施期日 平成〇〇年〇月〇日（〇曜日）

例：全体的な時間・・・14時03分～16時40分

※ 校時を変更し時間調整を行う。

③ 想定

平成〇〇年〇月〇日（〇曜日）の〇校時開始直後

○ 地震波到達 → 津波発生

④ 日程

| | 時 間 | 想定災害 | 項 目 | 内 容 |
|---|-------------|--------|----------|---------------------------|
| ① | 14:05 | 緊急地震速報 | 緊急放送 | 身の安全を確保することを指示避難口の確保 |
| ② | 14:05 | 地震波到達 | 安全確保 | 身の安全を確保 |
| ③ | 14:06 | 揺れが収まる | 緊急放送避難指示 | 運動場へ避難開始、整列 |
| ④ | 14:08 | 津波警報発表 | 津波避難指示 | 津波警報発表の詳細は随時更新される |
| ⑤ | 14:15～14:25 | | 人員点呼避難誘導 | 運動場での人員点呼確認後、〇〇公園へ避難開始・完了 |
| ⑥ | 14:25～14:40 | | | 〇〇公園での避難完了後、人員点呼確認・諸注意等 |
| ⑦ | 14:40～14:50 | | 帰校 | 避難経路を再確認しながら帰校 |
| ⑧ | 15:50～16:40 | | 学活・LHR | 地震・津波の避難訓練の反省 |

※状況によっては、日程の設定時間等が変更になることもある。

⑤ 避難場所

※避難経路及び避難場所等については、地図で掲載。

- ア 地震での避難場所（本校運動場）
- イ 津波での避難場所（〇〇公園）
- ウ 避難訓練日までに学級で再確認
- エ 雨天時は体育館へ変更

⑥ その他の関係者との連携について

- ア 地域及びP T A（道路を横断するので交通安全支援）
 - ・14:15分～15:25分の間（約10分間）、生徒と職員が避難場所〇〇公園へ避難。
- イ 警察関係（交通整理等）
 - ・14:15分～15:25分の間（約10分間）、国道〇〇号を横断する。その際の交通規制などについて協力を依頼する。
- ウ 消防関係（避難経路から避難場所までの支援）
 - ・14:15分～15:25分の間（約10分間）、生徒と職員で津波からの避難経路を歩きます。その際、生徒や職員と一緒に避難経路を歩きながら、経路の状況を把握するとともに、適宜の支援を依頼する。

<地震→津波の認知や対応の手順>

| | 時 間 | 想定災害 | 職員の対応 | |
|---|-------|--------|------------------|--|
| | | | 項 目 | 内 容 |
| ① | 14:05 | 緊急地震速報 | 緊急放送 | ① -1：机の下での安全確保の指示 防災管理者（教頭）放送指示 「ただ今、緊急地震速報が入りました。生徒・職員の皆さんは、身の安全を確保して下さい。」 |
| ② | 14:05 | 地震波到達 | 安全確保 | <地震による停電を想定した避難訓練> ② -1：（教頭はハンドマイク使用）放送指示「ただ今、地震が発生しています。生徒・職員の皆さんは、身の安全を確保してください。」 |
| ③ | 14:06 | 揺れが収まる | 緊急放送 避難指示 | ③ -1：（教頭はハンドマイク使用）放送指示「揺れが収まりました。生徒の皆さんは、先生の誘導に従って運動場へ避難して下さい。」 ※ 教頭及び職員2名体制による情報収集（ラジオ）等を活用しながら移動する 運動場へ避難開始、整列 ○男女番号順で並び人員点呼を行う ○津波発生時により時間の猶予がない場合点呼せず避難行動に移る ※副担任は担当学年が移動の際、所定の位置ではぐれた生徒がいなか確認する トイレなどにいないか確認する 配置されていない副担任は避難場所で生徒の集合を促す ※〇〇先生が「〇〇〇」君をおんぶして3 Fから1 Fにおり、手動式の車イスに乗せて避難します |

| | | | |
|---|-------------|------------------|---|
| | | | <p>人員点呼</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【誘導者（担任）】</p> <p>①出席簿を持つ</p> <p>②廊下で番号順に並ばせる（人員点呼）</p> <p>③生徒の安全に気をつけながら誘導する</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【支援を必要とする生徒への対応】</p> <p>①おんぶ等による支援の対応</p> <p>②周りの先生や男生徒の支援による対応</p> <p>③手動式車イスでの対応</p> </div> <p>※各主要箇所への職員の配置</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○年… A（○○先生） B箇所（○○先生）</p> <p>○年… C（○○先生） D箇所（○○先生）</p> <p>○年… E（○○先生） F箇所（○○先生）</p> </div> |
| ④ | 14:08 | 津波警報発表 | ※情報収集の2名は情報を確実に周知する |
| ⑤ | 14:15 | ※1 避難開始 ※2 | <p>※運動場にて人員点呼確認</p> <p><地震による停電を想定した避難訓練></p> <p>③ -2: 津波発生による避難命令発令（教頭放送） （教頭はハンドマイク使用）放送指示「ただ今、津波警報が発表されました。生徒の皆さんは、先生の誘導に従って○○公園へ急いで避難して下さい」</p> <p>③ -3: 教師の誘導で○○公園へ避難開始</p> <p>※教頭及び職員2名体制による情報収集（ラジオ）等を活用しながら移動する</p> <p>○○学校安全マップで示された避難経路で避難誘導</p> |
| ⑥ | 14:25～14:40 | 避難完了 帰校 | ④ -1: 学年主任は異常の有無を校長に報告。校長は関係機関へ報告。（第一次報告） |
| ⑦ | 14:40～14:50 | | ④ -2: 人員点呼の結果に異常があったら、校長に指示された職員が捜査に当たる |
| | | | ④ -3: 避難完了の最終確認（最終報告） （教科・学級担任→学年主任→校長→関係機関） |
| | | | ○○公園への避難完了確認・諸注意 |
| | | | ⑤ -1: 人員点呼→避難完了確認 |
| | | | ⑤ -2: 諸注意（○○先生） |
| | | | ⑤ -3: 諸連絡避難経路を確認しながら帰校 |
| ⑧ | 15:50～16:40 | 学活・LHR | 地震・津波の避難訓練の反省 |

※1 最終避難場所において、人員点呼を行うこともある。

※2 津波到達予想時間によっては、避難場所を考慮する。

※ 日程や手順等で示している時間はあくまで目安であり、地震が近くで発生した場合は、これより早く避難しなければならない。

※ 避難の猶予が無い場合は、校舎屋上か最上階に避難する。

<留意事項（避難訓練:各シナリオ）>

① 管理職（校長、教頭）

- ①ただ今、緊急地震速報が入りました。生徒・職員の皆さんは、机の下に入って安全確保をして下さい。
- ②ただ今、地震が発生しています。生徒・職員の皆さんは、机の下に入って安全確保をして下さい。
- ③揺れがおさまりました。生徒の皆さんは、先生の誘導に従って運動場へ避難して下さい。
- ④ただ今、津波警報が発表されました。生徒の皆さんは、先生の誘導に従って〇〇公園へ急いで避難して下さい。

② 各教室に戻り、避難訓練の感想（自己評価） 帰りの会

<防災管理組織>

| | | |
|---|--|------------|
| ① | 学校防災対策本部長：校長〇〇 | 防災管理者：教頭〇〇 |
| ② | 防災係…各学年主任 活動内容：避難経路の指示と学年生徒の管理 学年の把握（人員点呼）：学級（教科）担任→校長へ報告 職員の把握（人員点呼）：学年主任→教頭→校長へ報告 | |
| ③ | 誘導係 …………… 各学年の授業のない職員 | |
| ④ | 避難指示 …………… 校長 | |
| ⑤ | 避難に係る役割 …………… 職員（〇〇先生） | |
| ⑥ | 運動場での全体指揮 …………… 生徒指導主事（〇〇先生） | |
| ⑦ | 救護係 …………… 養護教諭、校長の指示する職員 | |
| ⑧ | 訓練時の要所での安全指導 …… 授業のない職員 | |
| ⑨ | マイクの準備 ……………（〇〇先生） | |

<事前指導>

① 時期 平成〇〇年〇月〇日（〇曜日） 【避難訓練三日前】

② 取扱い 学活の時間（10分程度）

③ 指導内容

- ア 避難訓練の意義が分かり、真剣に訓練する心構えをつくる。
- イ 学校にいる時、地震・津波が起きた場合に、どうするかについて話し合い、関心を高める。
 - ・安全な避難：あわてない！ 押さない！ しゃべらない！
 - ※なぜそうするかを理解させ、真剣に命を守る訓練をする。
- ウ 避難の順序や方法を話し合う。
 - ・合図で一切の行動をやめて、放送を静かに最後まで聞く。
 - ・前の人が倒れたら、すぐ後ろの人が手を高くあげて合図する。
 - ・校舎内では、速歩きで、外に出たら小走りする。（前の人と一定の距離を保つ。）

避難訓練の反省

平成〇〇年〇月〇日（〇曜日） 実施

平成〇〇年度、地震・津波避難訓練の取り組み、協力ありがとうございました。〇〇署長の講評では、「全体的に先生方の指示に従いスムーズに訓練が実施できた」とお褒めの言葉をいただきました。早速ですが、記憶の新しいうちに避難訓練の反省報告を記入し提出をお願いします。

期日について

| |
|--|
| |
|--|

日程について

| |
|--|
| |
|--|

訓練内容について

| |
|--|
| |
|--|

その他

| |
|--|
| |
|--|

ご協力ありがとうございました。

次年度、効果的な避難訓練が実施出来るよう参考にします。

(7) 安全点検表（施設・設備、非常用品等）チェックリスト

教室や特別教室等の施設・設備の点検や災害時への対応としての非常用品の準備等、定期的な点検が重要である。そこで、以下の点検項目等を参考に実効性のある点検表を作成し、それを活用し定期的な点検を行うことが重要である。

① 施設・設備等の安全点検

安全点検表（ 年度）
 点検場所（ ） 点検者（ 印）

| 場所 | 点検項目 | 点検結果 ○△× | 不良箇所 (程度) | 処理 月日 | 印 |
|----------------------|------|-------------------------|--------------|----------|---|
| 教室・ 特別教室・ 準備室等 | 1 | 机、イスは破損していないか | | | |
| | 2 | 床は滑りやすくまた破損箇所はないか | | | |
| | 3 | 窓や戸の開閉状況・破損していないか | | | |
| | 4 | 電気機器の故障はないか | | | |
| | 5 | 照明器具の破損や落下の恐れはないか | | | |
| | 6 | 壁や天井等から物が落下する恐れはないか | | | |
| | 7 | カーテン・レールの破損はないか | | | |
| | 8 | TV や機器が倒れないよう安全対策は万全か | | | |
| | 9 | コピー機は固定されているか | | | |
| | 10 | 室内の整理整頓は良いか | | | |
| | 11 | 刃物は定位置に保管されているか | | | |
| | 12 | 必要な箇所の施錠が確実にできているか | | | |
| | 13 | 薬品、棚の整理・保管ができているか | | | |
| | 14 | ガス栓・ガスの配管などに故障はないか | | | |
| | 15 | 換気装置に異常はないか | | | |
| | 16 | 放送に関する施設・設備の点検 | | | |
| | 17 | ピアノは固定されているか | | | |
| 流し 槽 | 1 | 器具に破損はないか | | | |
| | 2 | 排水口はつまっていないか | | | |
| | 3 | 流し槽は清潔に保たれているか | | | |
| | 4 | 滑りやすい状態ではないか | | | |
| 廊下 等 | 1 | 通行の妨げになる物はないか | | | |
| | 2 | 滑りやすく危険な所はないか | | | |
| | 3 | 靴箱が倒れる危険はないか | | | |
| | 4 | 非常口は開放できる状態にあるか | | | |
| | 5 | 扉・引戸はスムーズに開閉できるか | | | |
| トイ レ | 1 | ドア・戸口の鍵は破損していないか | | | |
| | 2 | 床・足場は滑りやすくなっていないか | | | |
| | 3 | 便器・シャワーの破損、水漏れ、排水不良はないか | | | |
| | 4 | 窓枠、窓ガラスの破損はないか | | | |
| | 5 | 洗濯機・乾燥機等の異常・故障はないか | | | |
| | 6 | シャワー・ガス湯沸器等の異常・故障はないか | | | |
| | 7 | 換気装置に異常はないか | | | |
| その 他 | 1 | 遊具などに危険箇所はないか | | | |
| | 2 | 周囲に危険な物が落ちていないか | | | |
| | 3 | 自転車置き場がきちんと整備されているか | | | |
| | 4 | 農具類はきちんと整理されているか | | | |
| | 5 | 動線の安全確保がなされているか | | | |
| | 6 | コンクリートの剥離落下の恐れはないか | | | |

② 管理点検表（非常用品等）

安全点検表（年度）
 点検場所（ ）
 点検者（ ）印

| 非常用品 | 管理場所 | 数量 | 管理責任者 | 点検結果 ○・× | 特記事項 |
|---------|-----------|----|-------|-------------|------|
| 救急箱 | 保健室、職員室 | | | | |
| 医薬品 | 保健室 | | | | |
| 担架 | 保健室、職員室 | | | | |
| AED | 保健室 | | | | |
| テレビ | 校長室、職員室 | | | | |
| ラジオ | 職員室、事務室 | | | | |
| ハンドマイク | 体育教官室、職員室 | | | | |
| トランシーバー | 事務室 | | | | |
| 屋外放送器 | 放送室 | | | | |
| 非常食 | 体育館 | | | | |
| 飲料水 | 体育館 | | | | |
| 飲料水浄化装置 | 倉庫 | | | | |
| 消火器 | 各棟各階 | | | | |
| バケツ | 各棟各階 | | | | |
| ロープ | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| バール | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| ジャッキ | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| ハンマー | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| ノコギリ | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| 鉋（なた） | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| 一輪車 | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| スコップ | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| つるはし | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| 軍手 | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| 脚立 | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| ハシゴ | 管理棟 1 階倉庫 | | | | |
| 懐中電灯 | 事務室 | | | | |
| 発電機 | グラウンド倉庫 | | | | |
| 非常灯 | 事務室 | | | | |
| ヘルメット | 各教室、職員室等 | | | | |
| 毛布 | 保健室、体育館 | | | | |
| テント | グラウンド倉庫 | | | | |
| ビニールシート | 体育館 | | | | |
| 防災服 | 事務室 | | | | |
| 長靴 | トイレ | | | | |
| 合羽（カッパ） | 倉庫 | | | | |
| 模造紙 | 事務室 | | | | |
| 印刷用紙 | 事務室 | | | | |
| マジック | 事務室、職員室 | | | | |
| ガムテープ | 事務室、職員室 | | | | |
| 乾電池 | 事務室 | | | | |
| 電子レンジ | 調理室 | | | | |
| コンロ | 調理室、事務室 | | | | |

(8) 児童生徒等の緊急時引き渡しカード

保護者等への引き渡しについては、学校と保護者等が事前に手順や方法等について基準や条件等を詳細に決めておく等、十分な話し合いを行い、学校と保護者等が共通理解を図ることが重要である。(津波の状況等によっては、保護者も子どもと一緒に学校に避難し、学校に留まることがあることを確認する。)

児童生徒等の緊急時引き渡しカード

※ 太線の枠については、事前に記入。

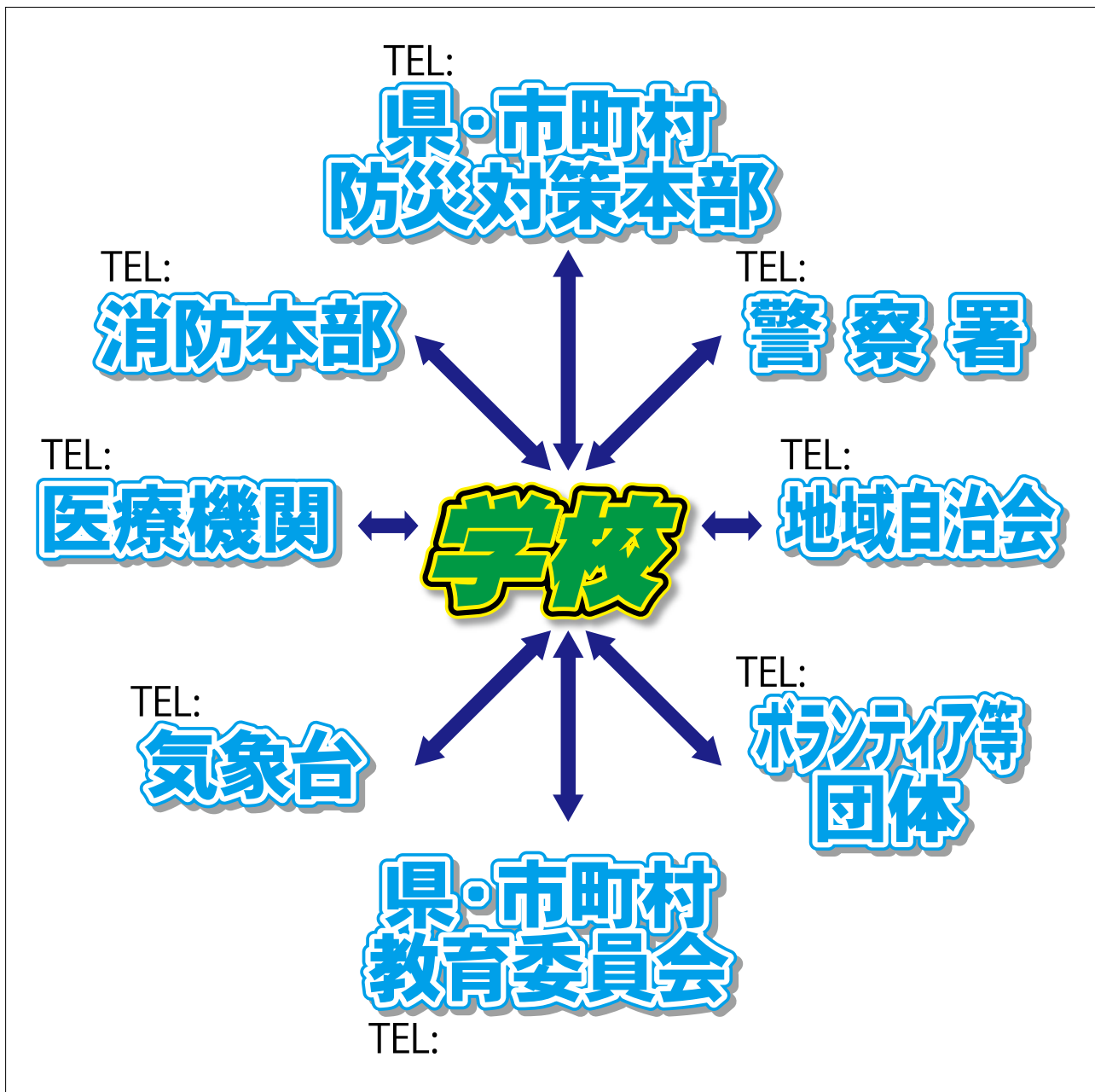
| | | | | | |
|-----------------|----------|-----------|--------|-------|--------|
| 児童生徒等氏名 | | 性別 | 男女 | 学年学級 | 年 組 番 |
| 住 所 | (TEL :) | | | | |
| 保護者名 | | 児童生徒等との関係 | | | |
| 本校に在籍する 兄弟姉妹 | (有・無) | 年 組 番 | 氏名 () | 年 組 番 | 氏名 () |
| 緊急時の 連絡先 | TEL 携帯 | | | | |
| | メールアドレス | | | | |
| 引き取り者名 | | 本人との関係 | | | |
| 避難場所 | | | | | |
| 引き渡し日時 | 月 日 () | 時 分 | 職員名 | | |
| 連絡メモ等 | | | | | |

引き取り者がいない児童生徒等への対応

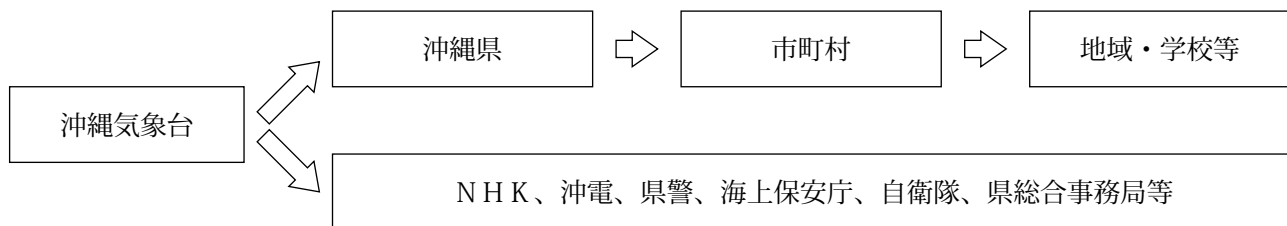
- 1 児童生徒等が引き取られるまで、安全な場所に集め、その場から離れないように座らせ落ち着かせる。
- 2 必ず職員が付添い、児童生徒等に安心感を与える。
- 3 児童生徒等には、不安感を抱かせないように心のケアに努める。
- 4 電話や通信機能が回復すれば、保護者等の勤務先又は緊急連絡先に連絡を取る。
- 5 連絡が取れない場合は、引き取り者が来るまで学校で保護する。

(9) 関係機関との連携と緊急連絡網

災害時に係る緊急連絡網を作成し活用することで、児童生徒等及び職員の安全確保を図る。
また、日頃より関係機関との話し合い等に参加するなど連携がスムーズに行われるようにする。



※ 地震・津波等の情報については、おおよそ以下のルートで情報が伝達される。



(10) 児童生徒等の安全確保を図るためのチェックリスト

災害から児童生徒等の安全確保を図るためには、災害に対する組織体制の構築や環境整備、児童生徒等の危険回避能力の育成に繋がる取組みの点検等が重要である。そこで、以下の項目等を参考に作成しチェックを行い、改善すべき取組みについては対応策を講じるようにする。

<例>

学校の地震・津波対策チェックリスト

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 学校の児童生徒等は、自校の海拔と海岸・河川からの距離を知っているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校は災害対策本部等の組織体制を確立しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校は日頃から防災体制の整備の充実に努めているか。(校内放送点検なども含む) |
| <input type="checkbox"/> 学校は日頃から防災教育の推進体制の充実に努めているか。(授業や特活・総合・学活等) |
| <input type="checkbox"/> 地震・津波等における複数の避難経路及び避難場所を確保しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 定期的に避難経路及び避難場所の安全点検を行っているか。 |
| <input type="checkbox"/> 地震・津波等を想定した避難訓練を実施しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 避難完了までの時間測定を行っているか。 |
| <input type="checkbox"/> 災害時における職員の役割分担を発生時別に明確にしてあるか。 |
| <input type="checkbox"/> 登下校時に地震・津波が発生した場合の避難の仕方について児童生徒等に指導しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒等や職員への非常時の情報伝達方法やその周知内容は準備されているか。 |
| <input type="checkbox"/> 非常時に情報等を知る TV やラジオ、緊急地震速報システム等を備えているか。 |
| <input type="checkbox"/> 安全が確認された場合に、児童生徒等を引き渡す条件や方法などについて普段から保護者に対して周知しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 災害時に停電が長期化する恐れがあるが、その対応策は講じられているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校が災害時の避難拠点となることから、市町村防災担当課や関係機関と協議し、事前にそれぞれの役割分担を明確にしているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校が避難場所となることから受け入れ体制は構築されているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校が避難場所となることから日頃から関係部局等との連携を推進しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 学校が避難場所となることから施設・設備等の点検を行っているか。 |
| <input type="checkbox"/> 災害後、授業再開への手順について関係機関と事前に調整しているか。 |
| <input type="checkbox"/> 怪我や障害のある児童生徒等への避難誘導體制は構築されているか。 |

(11) 地域の避難場所としての学校の役割

平成23年5月24日付けで文部科学省による告示では「公立の義務教育諸学校等施設は、児童生徒等の学習・生活の場であり、公教育を支える基本的施設となっている。地域住民にとっては、生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場として利用される身近な公共施設であるとともに、災害発生時には応急避難場所としての役割を果たす重要な施設となっている。」とあり、地域の応急避難場所としての重要性が謳われている。

また、「地震、津波等の災害に備えるための整備について、公立の義務教育諸学校等施設は、地震等の災害発生時には応急避難場所としての役割を果たすことから、耐震化のみならず、貯水槽、備蓄倉庫、トイレ、自家発電装置等を整備することにより、防災機能の強化を図ることが必要である。また、津波による被害が発生する可能性がある地域においては、児童生徒等の避難経路を確保する等の工夫をする必要がある。」等という文言が新たに追加された。

上記のこと等を踏まえ、自校が地域の避難場所に指定されているかどうかをまず、把握する必要がある。

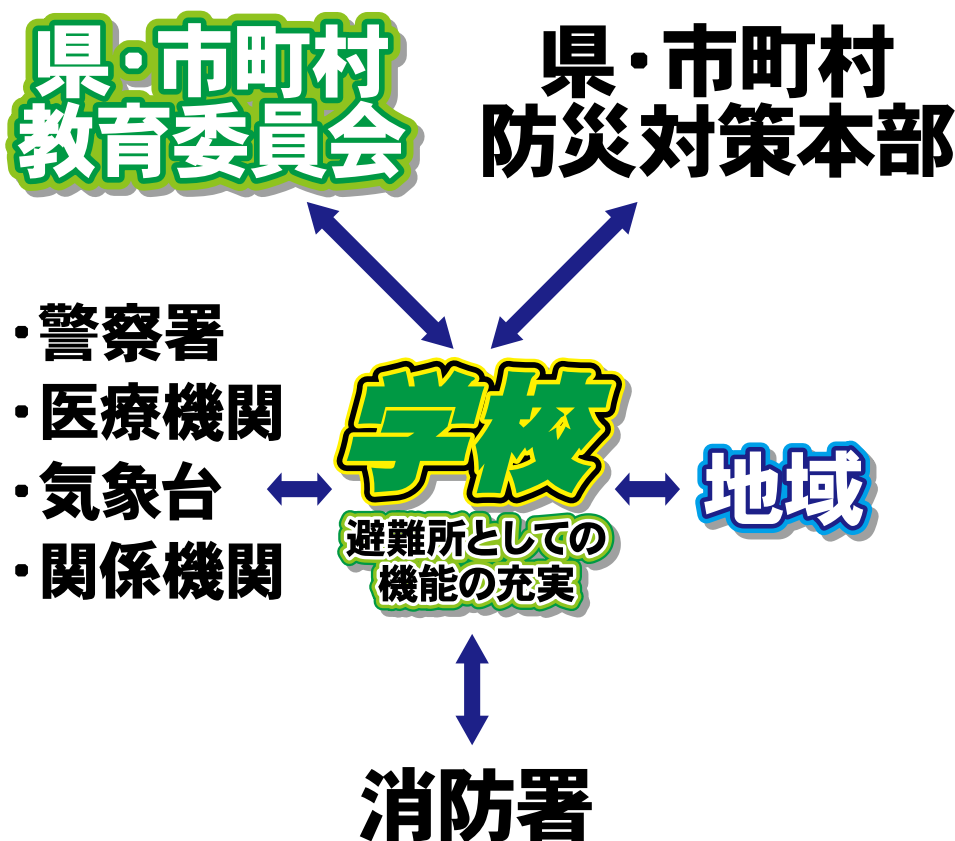
<避難場所に指定されている学校数>

沖縄県内の避難所に指定されている公立学校数は、「国立教育政策研究所・文部科学省の避難所指定学校の防災関係施設調査」によると、小中学校は、355校（90.6%：全校392校）、高等学校は、32校（53.3%：全校60校）、特別支援学校は、1校（6.3%：全校16校）、全体で388校（82.9%：全校468校）である。（平成23年6月）

なお、津波に関する避難場所については、現在見直し検討中の市町村が多い。

<避難場所としての学校と関係機関等との連携>

連携図



① 学校の施設・設備等の点検と改善を図る

- ア 空き教室や調理教室等を効果的に活用できるよう点検・改善を図る。
- イ 体育館等の施設・設備・設備落下物、倒壊への安全点検やトイレ等の衛生管理の点検を行う。
- ウ 津波による被害が発生する可能性がある地域においては、児童生徒等の避難経路を確保する等の工夫をする必要がある。
- エ その他、必要に応じて防災担当部局等と連携を図り施設・設備・物資等の充実を図る。

② 県・市町村防災担当課等の関係機関との連携を図る

- ア 日常における関係機関との連携の構築（学校や関係機関のそれぞれに役割確認等）を図る。
- イ 地域と連携した地震・津波を想定した避難訓練を行う。
- ウ 災害時での消防等関係機関と連携した支援活動等を行う。
- エ 県・市町村防災担当部局等と連携した物資、医薬品、水等の備蓄に関する整備の充実を図る。

③ 地域住民等の避難場所として学校の受け入れ体制の充実を図る

- ア 日常における関係機関及び地域住民との連携の構築を図る。
- イ 災害時における関係機関及び地域住民と連携した活動等を行う。

④ 災害時から災害後にかけて学校での避難所生活への対応

- ア 県・市町村防災対策本部等と連携した避難所生活への支援活動を行う。
- イ 病院や臨床心理士等と連携した住民の避難所生活における心身の健康状態に関する支援活動を行う。

⑤ 学校再開へ向けた対応

- ア 学校及び授業再開へ向けて県・市町村教育委員会等の関係機関と事前に調整する。
- イ 児童生徒等の状況や施設・設備等の安全確認等を踏まえ、再開への調整を図る。

(12) 児童生徒等の危険回避能力の育成

児童生徒等の安全確保を図るためには

自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成するための防災教育は大変重要である。そのためには、防災に関する基礎知識（地震・津波に関する基礎知識）を身に付けさせ、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動を取ることや児童生徒等の発達段階等を踏まえた授業等の創意工夫が必要である。

また、防災教育の一環として、学校独自の地震・津波等対策の危機管理マニュアルを効果的に活用した避難訓練の充実により、児童生徒等の危険回避能力が身に付くものとする。

自分の身は自分で守る

危険回避能力を身に付けさせる

自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成する防災教育の推進を図る



(13) 発達段階を踏まえた防災教育の取組内容等

学校における防災教育：例（校種別・学年別・教育目的別防災カリキュラム）

※発達段階を踏まえ、映像等を効果的に活用し防災教育の充実に努める。

①小学校1・2年生用

- ア 地震・津波を知る → 避難の必要性を知る（学活）、地震の特徴を知る（学活）
- イ 対処行動を知る → 学校や自宅周辺の避難場所を知る（生活）

②小学校3・4年生用

- ア 地震・津波を知る → 地震・津波の起き方、特徴を知る（学活）
- イ 対処行動を知るⅠ → 地震・津波から身を守る方法や避難方法を知る（学活）
- ウ 対処行動を知るⅡ → 学校や自宅周辺の避難場所及び様々な避難方法を知る（社会）
- エ 地域の地震・津波災害を考えるⅠ → 過去の地震・津波災害を知る（学活）
- オ 地域の地震・津波災害を考えるⅡ → 地震・津波から地域を守る対策を知る（学活）
- カ 画像等や先人の経験に学ぶ → 体験者等から話を聞いたり、画像等を通して学ぶ（学活）

③小学校5・6年生用

- ア 地震・津波を知る → 地震・津波の特徴や起き方を理解する（学活）・（理科）
- イ 対処行動を知る → 学校や自宅周辺の避難場所を知る（総合）
- ウ 地域の地震・津波災害を考える → 地震・津波から地域を守る対策を知る（学活）
- エ 画像等や先人の経験に学ぶ → 体験者等から話を聞いたり、画像等を通して学ぶ（学活）

④中学校1・2・3年生用

- ア 地震・津波を知るⅠ～「対処行動を知るⅠ」の復習（総合）
- イ 地震・津波を知るⅠ → 地震・津波の起き方を知る（理科）
- ウ 地震・津波を知るⅡ → 地震の揺れや津波の特徴を理解する（理科）
- エ 対処行動を知るⅡ → 避難後の行動を考える（学活）
- オ 地域の地震・津波被害を考える → 地震・津波から地域を守る対策を知る（社会）
- カ 対処行動を知るⅢ → 避難できない人間の心理を知る（総合・学活）
- キ 画像等や先人の経験に学ぶ → 画像等を通して学び語り継ぐ責任を考える（道徳）

⑤高等学校1・2・3年生用

- ア 地震・津波を知る → 「対処行動を知る」の復習（総合）・（LHR）
- イ 地震・津波を知るⅠ → 地震・津波の起き方を知る（地学）
- ウ 地震・津波を知るⅡ → 地震の揺れや津波の特徴を理解する（地学）
- エ 対処行動を知るⅡ → 避難後の行動を考える（LHR）
- オ 地域の地震・津波被害を考える → 地震・津波から地域を守る対策を知る（LHR）
- カ 対処行動を知るⅢ → 避難できない人間の心理を知る（総合・LHR）
- キ 画像等や先人の経験に学ぶ → 画像等を通して学び語り継ぐ責任を考える（総合・LHR）

⑥特別支援学校用

- ア 地震・津波を知るⅠ → ～「対処行動を知るⅠ」の復習（総合）
- イ 地震・津波を知るⅠ → 地震・津波の起き方を知る（理科）
- ウ 地震・津波を知るⅡ → 地震の揺れや津波の特徴を理解する（理科）
- エ 対処行動を知るⅡ → 避難後の行動を考える（学活）
- オ 地域の地震・津波被害を考える → 地震・津波から地域を守る対策を知る（社会）
- カ 対処行動を知るⅢ → 避難できない人間の心理を知る（総合・学活）
- キ 画像等や先人の経験に学ぶ → 体験者等から話を聞いたり画像を通して学ぶ（道徳）

(14) 学級（ホームルーム）活動における安全指導

学級（ホームルーム）活動における安全指導は、実際に生きて働く知識、態度、習慣などが確実に身に付くことを目指しているといえる。また、学級（ホームルーム）活動における安全指導は、学校における安全に関する指導全体の中で、最も実践的で具体的な指導が展開されるものであり、安全指導における中心的な役割をもつものと位置付ける。

| 区分 | 目標 | 項目 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|-------------|--|-------------------------------|--|--|---|
| 火災時の安全 | 火災のときに起こりやすい危険な状況を理解し、適切な行動ができるようにする | 火災のときの危険 | 低 火のまわり方と煙の危険 中 火災の原因と危険 高 火災発生時の心構え | 火災の原因と危険 火災に対する心構え | 火災の原因と危険 危険物の取扱い 火災に対する心構え |
| | | 火災の状況に応じた安全な行動 | 低 火のまわり方と煙に対する行動の仕方 中 火災情報に基づいた判断と安全な行動 高 安全な行動の要素 | 有害な煙に対する行動の仕方 火災の特性 救助器具の使い方と初期消火の仕方 | 有害な煙に対する行動の仕方 火災の特性 パニックの防止と安全な行動 初期消火の方法 |
| | | 避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方 | 低 避難の仕方と方法 中 避難場所の確認 高 様々な場面に応じた避難の仕方 | 避難経路、避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方 | 避難経路、避難場所の確認 様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方 |
| 地震災害時の安全 | 地震発生の場合、危険な行動に走りやすいことを理解し、安全な行動ができるようにする | 地震のときに起こる危険を理解し、安全に行動できるようにする | 低 地震のときの危険 中 地震情報に基づいた判断と安全な行動 高 地震のときの危険に対する心構え | 地震発生メカニズム 地震のときに発生する様々な危険（家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物） 正しい情報の入手 緊急地震速報への対応 パニック防止と安全な行動 地震災害への家庭での備え | 地震発生メカニズム 地震のときに発生する様々な危険（家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物） 正しい情報の入手と発信 緊急地震速報への対応 パニック防止の安全な行動 地震災害への家庭での備え |
| | | 避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方 | 低 安全な避難の仕方 中 安全な避難場所の確認 高 様々な場面に応じた避難の仕方 | 地震に応じた避難経路と避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方 | 地震に応じた避難経路と避難場所の確認 様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方 |
| | | 津波による危険と避難の仕方 | 低 安全な避難場所の確認と避難の仕方 中 津波による危険 高 津波情報の収集の仕方 場面に応じた避難の仕方 | 津波による危険 津波警報と避難の仕方 | 津波による危険 津波警報による避難と避難誘導の仕方 |
| 避難所と安全 | 災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、安全な行動ができるようにする | 災害発生状況と避難所の意義と相互扶助 | 低 避難場所での安全な生活 中 災害発生時の避難所の役割 高 避難所の生活と自分の役割 | 災害発生時の避難所の意義と役割 避難所での生活自主的な組織活動の必要性と相互扶助 ボランティア活動への参加 | 避難所生活と相互扶助 自主組織の活動への積極的参加 ボランティア活動への積極的参加 ライフラインの確保 |
| 災害の備えと安全な生活 | 災害安全に関する意識を高めるために、防災避難訓練等の学校行事の意義を理解し、積極的に参加できるようにする | 災害安全に関する学校行事等の意義の理解と積極的な参加 | 低 防災避難訓練等への参加の仕方 中 災害安全に関する学校行事への積極的参加 高 災害安全等に関する学校行事の意義と理解 | 災害安全に関する学校行事の意義の理解 防災避難訓練等行事への参加 | |
| | | 生徒会活動による自主的活動への参加 | 高 災害安全に関する児童会活動の内容 | 災害安全に関する生徒会活動の内容 | 災害安全に関する生徒会活動の内容 |
| | | 地域社会における防災活動への参加 | 低 家庭での防災 中 学校での防災 高 地域における防災に関する活動の理解と参加 | 地域における防災に関する活動への参加（防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動） 家庭での防災に関する積極的な関わり（点検・整備、防災備品の整理） 家庭における避難場所や連絡方法及び登下校の安全 | |

(15) 学級活動指導案（小学校）

1 題材名 「地震ってなに」 「地震がおきたら」 「地震がおきる前に」

2 目標

自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解し、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成する。

3 本時の指導

(1) ねらい： 地震について知り、正しく（進んできまりを守り）、安全（危険を回避し）に行動できるようにする。

(2) 展開

| 段階 | 活動内容 | 予想される児童の反応 | 指導上の留意点 |
|-------------|---|--|---|
| 導入 (5)分 | <p>【導入発問】 ○地震ってなんだろう？</p> <p>【めあての確認】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>じしんがおきたら、○○しく、○○○○に行動することができる</p> </div> <p>○地震に対する行動を考える</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ゆれることだよ！津波も起きる！ ・建物とか地面がゆれること！こわい！ ・地球の中で、何かが押し合いっこしてるんだ | <p>児童の生活経験と結び付けて思い起こさせる</p> |
| 展開 (35)分 | <p>【話し合い】 ○地震がおきた時、どんな気持ちだったかな？</p> <p>○地震がおきたら、どうしたらいいだろうか？</p> <p>【自己決定】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おどろいて、こわがっている自分になにができるかな？</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・家中がゆれておどろいたよ！こわかった！ ・逃げなきゃって思ったよ！ ・どうすればいいかわからなくなった！ ・東日本大震災のようすを思い出したよ！ | <p>地震の様子が分かる映像資料等を準備し必要に応じて活用する</p> <p>ワークシートを活用して具体的な行動を引き出す</p> <p>地震がおきる前に考えておかなければならないことがあることに気づかせる</p> |
| まとめ (5)分 | <p>【振り返り】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>じしんがおきたら、○○しく、○○○○に行動することができる</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・正しく・・・ ・「おかしもち」の合言葉・約束をまもる！安全に・・・ ・前もって、頭も心も、物も準備する！ | <p>日常生活で具体的に実践できるようにする</p> <p>ワークシートを家に持ち帰らせ保護者と確認させることで、連携を図る</p> |